

3月議会一般質問のご報告

第1問は「歩くまちづくりの推進」、第2問は「安曇野市の職員の人材育成と組織運営」、第3問は「気候変動への対策」を取り上げました。

1. 「歩くまちづくりの推進」

・歩くことの効果と取り組みは。

(保健医療部長)生活習慣病対策や認知症予防に有効。健康体操教室、各地域の活動で取り組んでいる。

(教育部長)ポールウォーキングやノルディックウォーキングの教室、博物館の歩く現地学習は人気。講座を設けた「インターバル速歩」は、運動の習慣化やメタボリックシンドローム予防に有効とのデータもある。

・ウォーキングコースを整備し、歩きを奨励して、心身の健康と安全・安心のまちづくりに生かしては。観光と一体での推進もどうか。

(市民生活部長)歩きながら安全パトロールに取り組む地区がある。

(商工観光部長)歴史、文化、史跡、カフェ、美しい

2. 「安曇野市の職員の人材育成と組織運営」

・コロナ禍で、社会の様々な課題を突き付けられ、行政のあり方も問われてきている。職場環境づくりの取り組みと評価は。

(総務部長)安曇野市人材育成基本方針に基づき、市民の皆様への接遇マナー向上、心の健康づくりと職場復帰支援、時間外勤務の適正推進、などに取り組んでいる。自己申告制度や職員提案制度、女性職員の能力発揮推進なども行っている。

・職員研修計画において、男女関係なく、ワーク・ライフ・バランスの研修を受講すべきでは。

(総務部長)現在はワーク・ライフ・バランスに特化した研修はない。今後研修機会、啓発機会を確保したい。

景観を歩いて巡るのは有効である。既存の里道を活用する8つのルートを、「安曇野を歩こう」と題して、パンフレット等で紹介している。

・コンパクトシティや自転車を活用したまちづくりと併せて、歩くまちづくりに取り組んでは。

(政策部長)総合計画で、健康づくりを重点化施策に位置付けた。情報発信と市民参加を促したい。



歩く人を道祖神が見守る

・①安曇野を広く深く知る安曇野学、②IoT やDX等の新技術、③SDGsやエシカル消費等の新用語、など研修メニューを検討しては。

(総務部長)①市民向け講座も多々あるので、職員自らの自発性を求める。②県主催の専門研修があり、基礎的な知識を持つ職員のステップアップを図る。③公務遂行の基本能力向上が研修目的である中で、提案をどうメニュー化するか課題としたい。

3. 「気候変動への対策」

・長野県は、他の自治体に先駆けて「気候非常事態宣言～2050 ゼロカーボンへの決意～」を宣言した。本市でも、水資源の枯渇対策等を考えるべきでは。

(市民生活部長)本市は、県の気候非常事態宣言に賛同している。令和4年度に予定する「環境基本計画」見直しに向け、ゼロカーボンに向けた実効性のある施策を検討する。

・内外で機運を高め、景観や水資源を守っていくと

発揮して、気候非常事態宣言を市独自に宣言する時期にきているのではないか。

(市長)市独自の気候非常事態宣言は考えていない。脱炭素社会の構築、環境問題は世界的な課題であると認識している。市内でも、SDGs目標達成につながる「緑のカーテン」、「環境家計簿」の啓発普及、住宅用の太陽光発電システム設置への補助事業等、対応する。

安曇野で活動 インタビュー

身近な地球温暖化防止策である「緑のカーテン」の普及活動をしている「NPO 法人あづみ野風土舎」さんをご紹介します。

Q1どんな活動をしていますか？

☞ 琉球朝顔を使った「緑のカーテン」の普及に取り組んでいます。熱気を遮り、室温を3℃ほど引き下げ、節電効果は30%とのデータもあります。ヒルガオ科の琉球朝顔は、日よけに最適な大きな葉に加え、霜が降りるまで濃いブルーの花を一日中楽しむことができます。毎年、「緑のカーテン広げよう講座」に合わせて苗を配布し、「緑のカーテンつなげようコンサート」「写真展」なども開催しています。

Q2どんな思いで活動に取り組んでいますか？

☞ コンセプトは「環境と心にやさしい緑のカーテン」です。環境にやさしいことはもちろんですが、緑のカーテンを通じて会話が生まれたり、栽培者同士で情報交換したりと交流が広がります。この取り組みが少しでも地域のためになればと願っています。

Q3今後の展望はどうか？

☞ 2009年に穂高で始めた活動ですが、市内各地や市外へと広がっています。つながりや交流をもたらす緑のカーテンは、自発的に学び活動する、立派な生涯学習でもあります。ぜひ多くの方に育てて欲しいと願っています。

「NPO 法人あづみ野風土舎」理事長の磯野康子さんにお聞きしました。



琉球朝顔「オーシャンブルー」の緑のカーテン



「緑のカーテン広げよう講座」の様子